

核兵器を創っても、 捨てきれないアメリカ

入場
無料

—映画オッペンハイマーに観るアメリカの本質—

講師からのメッセージ

3月29日から日本でも米国映画オッペンハイマーが始まりました。私は昨年11月に被爆者11名と米国の3都市（ローリー、シカゴ、ポートランド）を巡り、米国市民1000人以上と対話してきました。みなさん核兵器はなくすべきだと言っていました。私は長崎での研究を語り、核の非人道性を指摘しました。米国の政府と市民は、核を創った責任をとり、核を捨てるべきと訴えました。いくつかの大学ではスタンディング・オベーションを受けました。シカゴに着いたときオッペンハイマーの米国公演が終わる1日前でした。慌てて映画館に行きました。これは米国で初めての反核映画です。原爆情報を隠し、日本に早期敗北をもたらし、多くの米国市民の命を救ったという固定観念を植え付けてきた米国に、やっと核を捨てるべきと考える若い世代が生まれています。《はたしてアメリカは捨てること出来るでしょうか？》

講師

朝長万左男先生

長崎大学名誉教授／原爆病院名誉院長
被爆者手帳友の会会長



1968年長崎大学医学部を卒業以来、40年以上にわたり、長崎大学原研内科の医師として、白血病や骨髄異形成症候群(MDS)などの造血器腫瘍を中心に診療と研究を続け、90年から同科教授に就任。退官後は、日本赤十字社長崎原爆病院院長・名誉院長、現在は恵みの丘長崎原爆ホーム診療所で被爆者の診療を続けている。

外務省の「実質的核軍縮を推進する賢人会議」等の要職を務め、2019年からは被爆者団体である県被爆者手帳友の会の会長に就任し、被爆者としても国内外で核廃絶を訴えている。

とき

2024年7月20日(土)

17:30～19:00 (開場 17:15)

ところ

ホテルニュー長崎 3F (JR長崎駅近く・長崎市大黒町)



お問い合わせ先 長崎県保険医協会

〒850-0056 長崎市恵美須町2-3フコク生命ビル2F TEL 095-825-3829

協会HPはこちら▶

